

平成 30 年度 第 5 回未来創造セミナー

「SDGs からみる未来のまちづくり～SDGs は環境・社会・経済の“三方よし”～」実績報告

1. 開催日時:平成 30 年11月 6 日(火) 14 時から 16 時
2. テーマ:「SDGs からみる未来のまちづくり～SDGs は環境・社会・経済の“三方よし”～」
3. 話題提供者:
 - SDGs の視点と取組 滋賀県商工観光労働部商工政策課 森口 誠人
 - みどりとみずべの将来ビジョン 滋賀県土木交通部都市計画課 湯浅 まゆ
4. グループワーク
滋賀県らしい SDGs の視点の取り入れ方
5. 開催場所:UDCBK
6. スケジュール
14 時～15 時
話題提供
15 時～16 時
グループワーク
7. 参加人数:20 名
8. 報告

(1) 「シリーズ SDGs からみる未来のまちづくり」について

本セミナー「SDGsからみる未来のまちづくり」は、SDGs について先進的な取組をしている大学、行政、企業の担当者を招き、これから未来のまちづくりを実施していく際に SDGs という考え方をどのように取り入れていけばいいかを参加者と一緒に考えるシリーズである。

今回は 3 回シリーズの 2 回目にあたる。第 1 回は立命館大学の建山先生をお招きし、「イノベーションから SDGs を考える」をテーマにお話をいただいた。何も無い白地のキャンパスからイノベーションを考えるより、SDGs のようにゴールは明確であるが、プロセスが自由である方がイノベーションを起こしやすいこと、そして、既存の技術を今までと異なる文脈におき、意味を読み替えてイノベーションを起こすデザイン・ドリブン・イノベーションの事例としてキャンパスをひとつの地球とみだてた「サステナブル・ウィーク」を紹介いただいた。

今回の第2回は、SDGsの視点を取り入れることによって、滋賀県の政策がどのように変化したのか、あるいは変化しようとしているかを県の商工観光労働部商工政策課の森口さんと土木交通部都市計画課の湯浅さんにお話いただいた。

(2) SDGsの視点と取組

まず滋賀県商工観光労働部商工政策課の森口さんから、SDGsの概要と視点、および民間企業等の取組事例を紹介していただいたあと、SDGsの視点を取り入れることによって、商工政策にどんな効果があったか、あるいはどう変わったかを御説明いただいた。

- SDGsの概要と視点
 - SDGs(持続可能な開発目標)は2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに国際社会が取り組むべき17の目標と各目標に設定する169のターゲット、約230の指標の三重構造となっている。
 - 特徴は、未来の姿から現在を振り返って政策を積み上げる「バックキャストिंग」のアプローチであること、経済成長、社会的包摂、環境保護という3つの課題の統合的解決であること、理念は「誰ひとり取り残さない」であり、方向性と目標のみで具体的政策や行動はみんなで考えること、である。
 - 2015年の国連サミット(持続可能な開発サミット)で採択、2016年からスタートし、日本政府でも取り組んでいる。滋賀県は全国の都道府県の中で、いち早くSDGsに取り組んでいる。
 - 滋賀県の次期滋賀県基本構想はSDGsの特徴や視点を活かし、みんなで目指す2030年の姿からバックキャストिंगによる政策の方向性などを定めている。
 - 県基本構想の理念は「変わる滋賀 続く幸せ」であり、SDGsの環境、社会、経済のウェディングケーキの上に人を置いている。
 - 商工観光労働部では、「未来を支える 多様な社会基盤」(社会)、「未来を拓く 新たな価値を生み出す産業」(経済)、「柔軟で多様なライフコース」(人)の柱に所管する事業が関連している。
- 民間企業等の取組事例
 - 滋賀経済同友会では、SDGsの視点を取り入れた戦略的CSR(企業の社会的責任)経営モデルを提唱。アウトサイド・イン(社会基点)のビジネスアプローチとして、「地域の社会的課題×本業×イノベーション」をキーワードとしている。「しがグリーンインフラ構想」として、「自然環境が有する多様な機能を賢く利用することで、持続可能な社会と経済の発展に寄与するインフラや土地利用計画」を策定している。
 - その他日本企業の取組、滋賀県企業の取組や海外を含めたSDGs達成に向けた社会の動きを御紹介いただいた。
- 商工観光労働部の取組
 - 滋賀県がSDGsに取り組む意義

SDGsの理念は、中江藤樹の平等思想、雨森芳洲の誠信外交、糸賀一雄の福祉思想、近江商人の「三方よし」の理念、県民せつけん運動など、脈々と受け継がれる滋賀の精神に通じており、SDGs という世界共通言語を得たことにより、国内外のモデルとして、さらに大きく広がる期待がある。

- 商工観光労働部では、SDGs の理念を理解し、商工観光労働政策を「SDGsの視点で考える」、パートナーシップのもとで SDGs を達成するため、「SDGsの普及に取り組む」のふたつを目標としている。
- 「SDGsの普及に取り組む」は、SDGsの達成につながる取組を積極的に「滋賀モデル」として国内外に発信、SDGsの滋賀県版ロゴマークの使用など SDGs を産業界・経済界・消費者の誰もが知っている社会を目指している。
- 「SDGsの視点で考える」とは、政策立案時に「SDGsの目標の達成に貢献するものか」、「持続可能な社会づくりに効果的か」、「SDGsの他の目標の達成を阻害していないか」を複眼的な視点で考えることである。
- 個別の商工観光労働政策を SDGsの視点から評価
商工観光労働政策を SDGs の17の目標の達成に貢献するかを検討することにより、経済成長のみならず、社会的包摂、環境保全の観点からも評価する。具体的には各政策の達成に貢献できる目標アイコンを貼り付けている。
- 滋賀ウオーターバレー・水環境ビジネスの推進
今まで培ってきた琵琶湖を保全するための水環境ビジネスを SDGsの視点から評価し、技術だけではなく、県民の環境保全活動などのノウハウもパッケージとして海外に紹介している。
- 滋賀 SDGs × イノベーションハブの開設
2018年10月5日、コラボしが21に開設。産官金の連携により滋賀の社会的課題の解決につながるイノベーションを創出するとともに、SDGs の理念を踏まえたビジネスモデルを創出する。
- 最終的には、パートナーシップによる地域の特性を活かしたオープンイノベーションを推進し、地域活性化による地方創生を図り、地域の一体性を育み、全員が参加できる社会を目指している。

(3) 「みどりのみずべの将来ビジョン」

続いて、土木交通部都市計画課の湯浅さんから「みどりのみずべの将来ビジョン」について説明いただいた。

● ビジョンの概要

これまで、琵琶湖やその周辺においては、自然環境や景観の保全を行う「守る」を中心に施策を進めてきたが、琵琶湖の本来の価値の更なる活用が求められていることから、保全を尊重しつつ利活用する方策を示す。すなわち琵琶湖を SDGsの視点から、湖辺域(湖岸より200m)を(環境を)保全(する)エリア、(社会的包摂に)利用(する)

エリア、(経済成長に)活用(する)エリアの三つに区分して、バランスのとれた保全・利活用を推進、官民連携による賑わい創出、適切な運営管理による公園の魅力向上を目指す取組である。

- 湖辺の利活用状況

草津市にある県営の都市公園(山田新浜地区(帰帆島)、志那地区)を含む県営公園(びわこ地球市民の森、びわこ文化公園など内陸部も含む)の利用状況についてアンケートを実施した。

- 「公園の利用目的」は「散歩、ジョギング」、「休憩、トイレ利用、駐車場利用」が多い。ほぼ一人で利用する活動が多い。
- 「緑の満足度」、「清潔さの満足度」、「安全さの満足度」はいずれも過半を超えており、総じて高い。
- 「公園の利用頻度(居住地と公園の関係)」では、ほぼ毎日利用する人は居住地内の公園、月1回利用する人は周辺の公園が多い傾向があるが、ほぼ毎日利用は約4%に留まっている。
- 「充実してほしい施設(公園を利用したことがある方とない方の比較)」では、公園を利用したことがある方とない方と傾向はほぼ同じで「公園内や湖岸緑地の自然景観を眺めて憩える施設」、「ドライブの休憩拠点(駐車場やトイレなど)」、「幼児や子供が遊びやすい遊具」等であるが、ない方よりもある方の要望が高い。一方で、ある方よりない方の方が高い要望は「災害時に利用できる備蓄倉庫、避難所などの防災施設」、「健康づくりに役立つ広場やジョギングなどができる園路」である。
- 「新たな都市公園の設置希望地域」では、「大津市、浜大津・石山・瀬田地域」と「草津市、矢橋・山田地域」で約2割と高いが、「現状以上に必要はない」も約2割と高い。
- 「自然環境を保全すべきエリア」は、「高島市、マキノ・今津地域」、「近江八幡市長命寺地域」が高い。
- 「大津市、浜大津・石山・瀬田地域」は「新たな都市公園の設置希望」も、「自然環境を保全すべき意向」も高い。

- 湖辺の現況

- 湖岸周辺(湖岸から概ね500m)の土地利用状況では、大津市(西岸)、長浜市にて建物用地が分布しているが、大部分は、田、その他農用地が分布している。
- 草津市の湖岸には、ヨシ群落保全区域が点在しており、現存している場所は良好な状態に向けた保全を、失われた場所は再生を図る。

- 今後について

今年度(平成30年度)は、「保全」「利用」「活用」のエリア区分の素案を作成する。
来年度(平成31年度)は、エリア区分の精査、「活用」エリア等の民間活力導入に向

けた意向調査を行い、将来ビジョンを策定する予定である。

9. グループワーク「SDGsの視点から琵琶湖の活用を考える」

グループワークのファシリテーターはUDCBKの溝内が担当した。

滋賀県は全国に先駆け、2017年1月、SDGsを県政に取り込むことを宣言した。滋賀県には古くから、SDGsに相通じる「売り手よし、買い手よし、世間よしの“三方よし”」の文化があったからだ。この“三方よし”にSDGsの視点を取り入れることによって、県の政策がどう変わったか、またどう変えようとしているのか、その現場の状況を語っていただいた。

今まで政策立案の際には、環境なら環境、経済なら経済と個々の政策に閉じられており、他の政策との関連を日常的に意識したことがなかったが、SDGsの視点を取り入れることによって、個々の政策にあてはまるSDGsのゴールを考えるようになり、他の政策との関係を意識するようになった。行政批判でよく言われる縦割行政の解消に繋がる可能性があると期待される。これは第1回の異なる文脈に当てはめ、意味を読み替えてイノベーションを起こすデザイン・ドリブン・イノベーションの考え方にも通じている。

また“三方よし”は、売り手よし、買い手よし、世間よしという内から外の視点だったが、SDGsでは社会が課題解決のために求めるものは何かという外から内への視点で政策を考える必要があるとのこと。同時に、環境、社会、経済がトレードオフの関係ではなく、統合的に解決されていくように考えなければならないとのことが従来と異なるところとのこと。

また県の都市計画課では、現在、SDGsの視点を取り入れ、今まで保全中心の琵琶湖を、その湖辺を活用しながら、保全していくことを考えている。

そこで、今回は参加いただいた方々と一緒にSDGsの視点からの琵琶湖の湖辺の活用を考えるワークショップを行うこととした。

1. グループ1 “びわ湖は森の恋人!!”

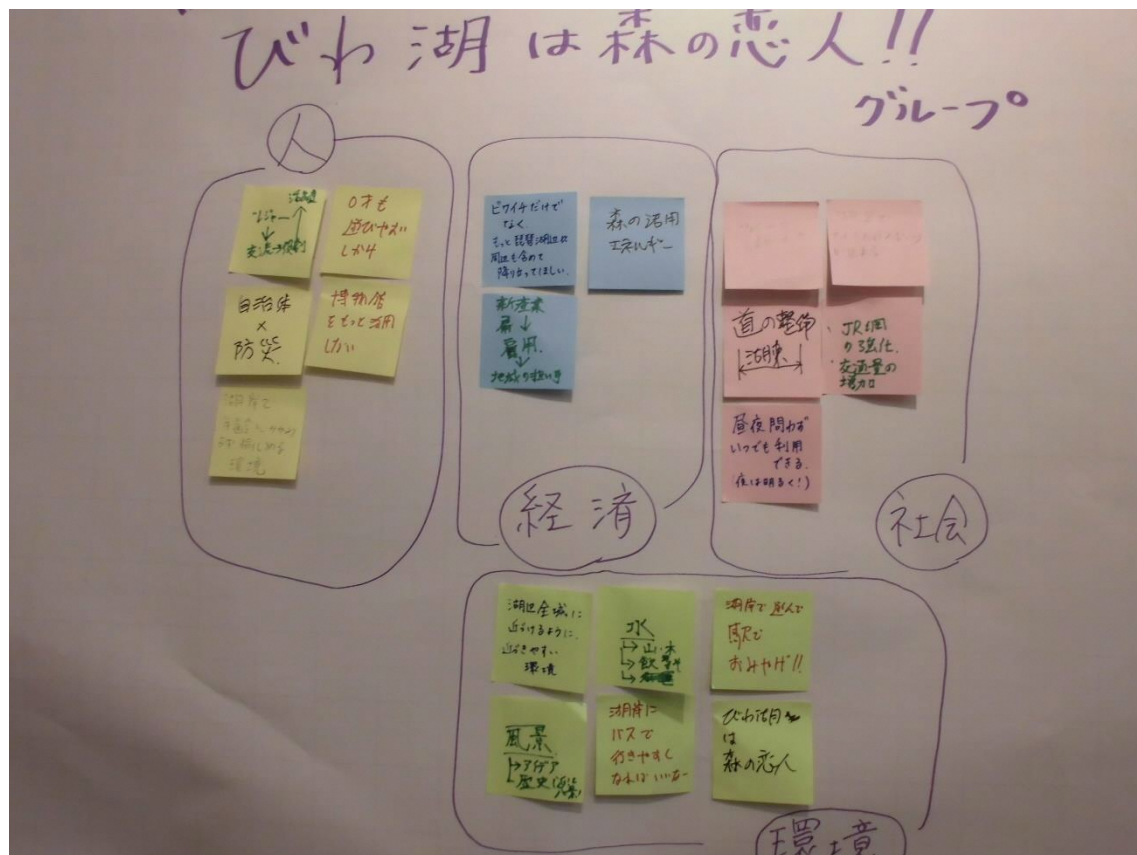
滋賀県基本構想原案に基づき、琵琶湖を「人」、「経済」、「社会」、「環境」から捉えた。

「人」では、「レジャー→交流→役割→活躍」、「自治体×防災」、「博物館をもっと活用」などアンケートに見られた減災の一人で単一目的で利用ではなく、大勢で多目的に利用し、さらには継続的な活動を視野に入れている。

「経済」では、琵琶湖辺りだけではなく、周辺の広がりが期待されており、森を活用したエネルギーなど琵琶湖を含めた流域として捉えた新産業を求めている。

「社会」では、湖辺のアクセス改善として、湖上交通、道路、鉄道などマルチモーダルな整備を求めている。その他、昼夜問わずの利用や湖面利用も提起している。

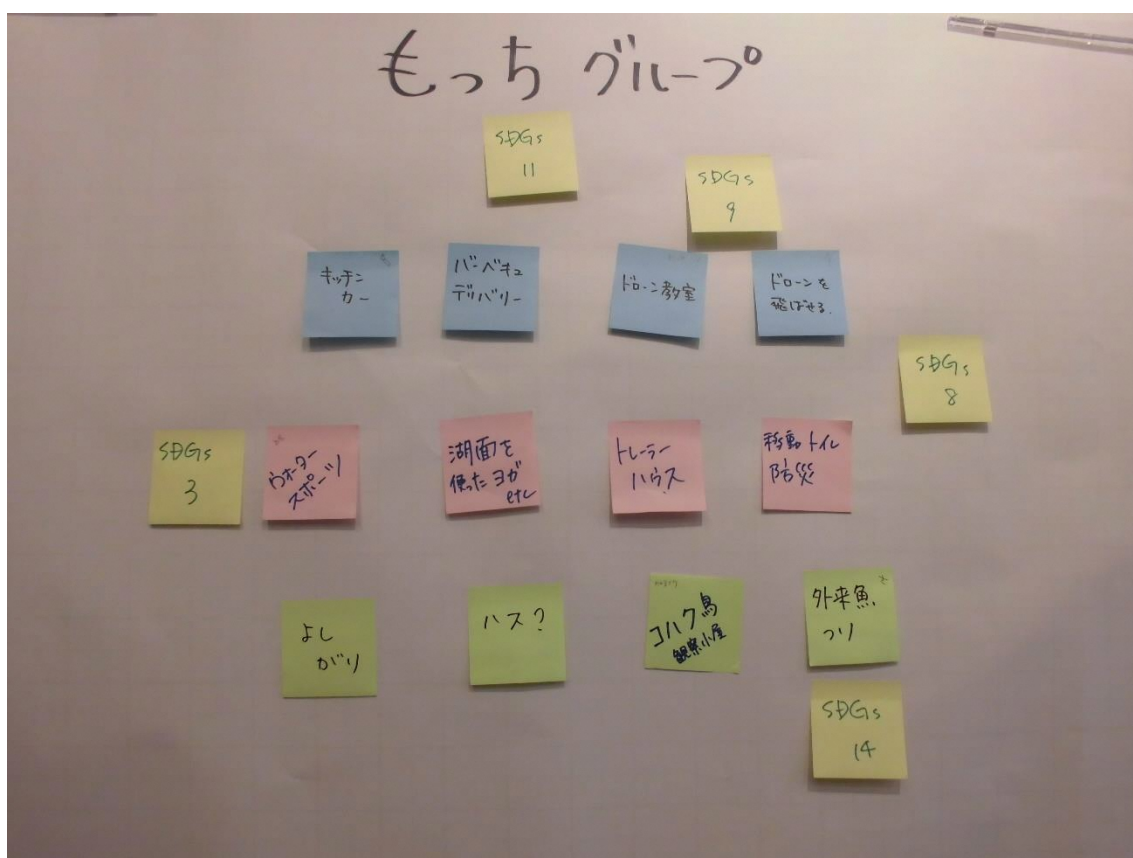
「環境」では、琵琶湖の自然に気軽に触れられるよう「社会」と同様湖岸へのアクセスを求めている。またここでも湖岸に限定せず、森や川との関わり、また歴史などとの関係にも言及している。



2. グループ2 もっちグループ

17の目標のうち、「11 住み続けられるまちづくりを」をメインに、「3 すべての人に健康と福祉を」、「8 働きがいも経済成長も」、「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「14 海の豊かさを守ろう」を取り上げている。

グループには行政職員もおり、現在は琵琶湖の規制が厳しく、構造物が建てられないことから、キッチンカーやトレーラーハウスや移動トイレなどの移動可能なものやバーベキューデリバリーなどのアイデアが出された。これらが災害時の防災拠点としても利用可能なことが示唆されている。また湖岸は周辺にはなにもないことから、ドローンを活用した案もでていいる。その他湖面を利用したスポーツ、ハスやヨシやコハク鳥や外来魚の釣りなど保全に関する取組を挙げている。

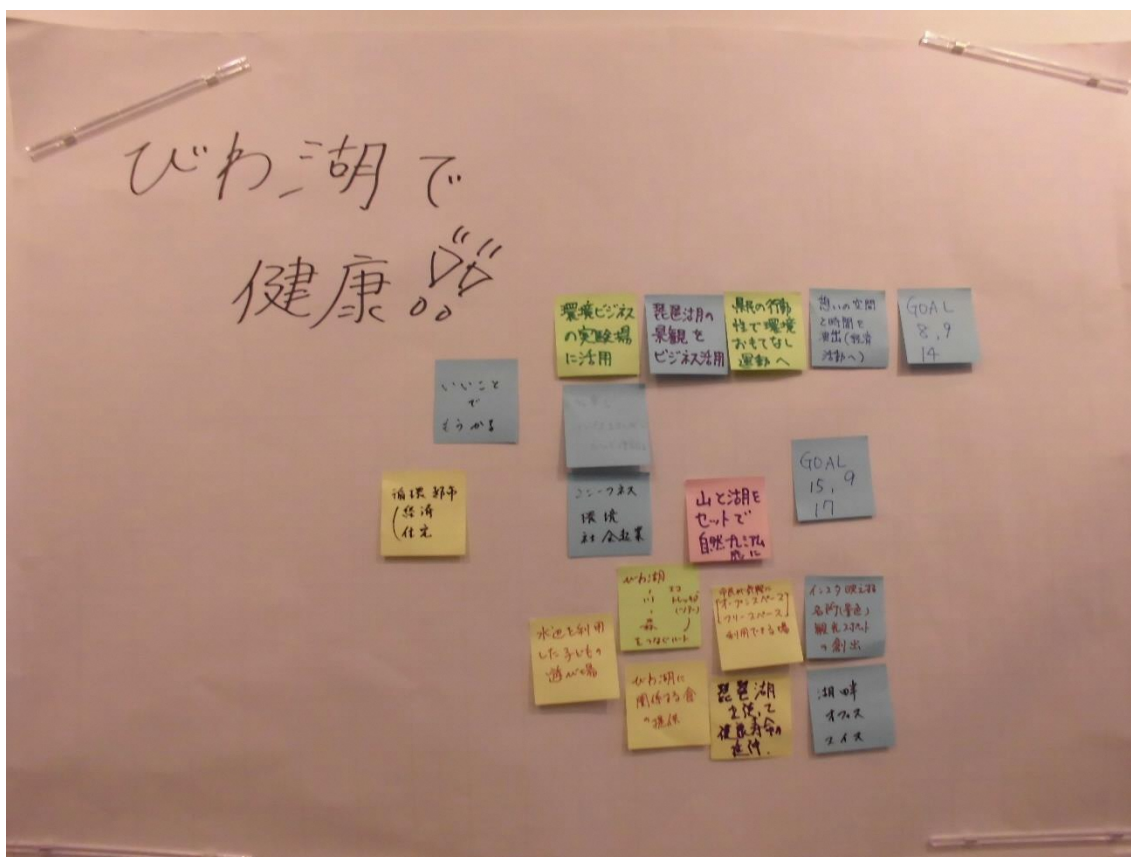


3. グループ3 びわ湖で健康!!

「14 海の豊かさを守ろう」をメインに、「8 働きがいも経済成長も」と「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」をテーマにしたアイデアと「15 緑の豊かさを守ろう」をメインに、「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」と「17 パートナーシップで目標を達成しよう」をテーマにしたアイデアの提案である。

「14 海の豊かさを守ろう」では、琵琶湖を環境ビジネスの実験場にする案や景観をビジネスに活用する案のほか、県民の活動を環境おもてなし運動として経済活動に位置づけている。

「15 緑の豊かさを守ろう」では、琵琶湖を湖面と湖辺だけではなく、山・森から川を経て琵琶湖という流域として捉えている。



4. グループ4 湖面にカジノ

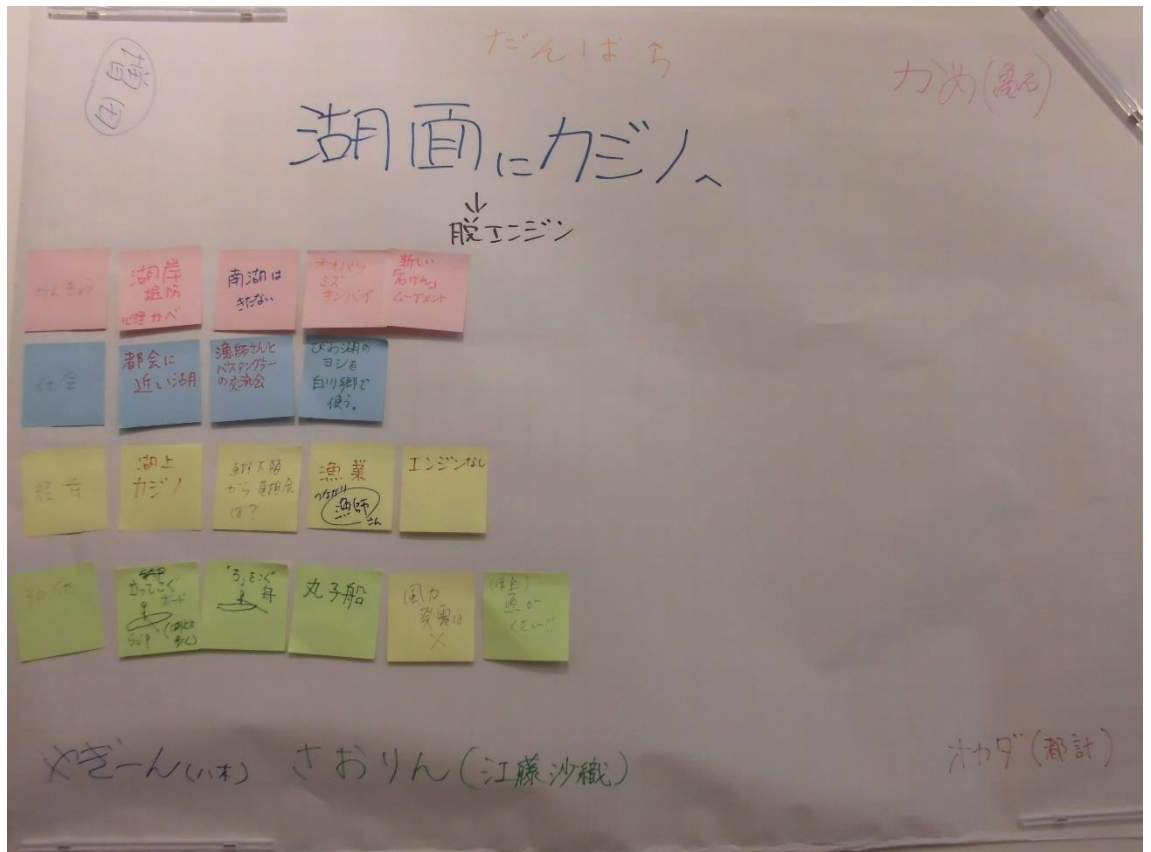
琵琶湖の利活用を「環境」、「社会」、「経済」、「その他」に分類し、整理した。

「環境」では、保全という観点ではなく、琵琶湖と触れ合うために環境を改善するという提案であった。

「社会」では、琵琶湖と都会、漁師とバスアングラ、琵琶湖のヨシと白川郷など他者(場所)との交流という視点の提案であった。

「経済」では、湖上カジノという案が出された。エンジンのない環境により船で湖上のカジノを開き、その収益で琵琶湖を保全する案である。

「その他」では、人力や風など自然を動力源としたボートなどによる湖面活用が提案された。



10. まとめ

● SDGsについて

UDCBKのコンセプトは、「地域を知る、互いを知る」、「未来のイメージの共有」、「新たな活動の創出」の3つです。「未来のイメージの共有」はたったひとつの未来のイメージを共有するのではなく、様々な未来のイメージがあることを共有することです。

UDCBK では、様々な未来のイメージがあることを共有しながら、それぞれの未来のまちづくりを進めていくとしています。そして、お互いの活動を意識しあうことによって、自ずと協働できるところは協働し、できないところはお互いの活動を妨げないように配慮するようになり、様々な未来のイメージが一定の枠の中に収束していくと考えています。そのためには、様々な指標が必要になることから、UDCBK では「チャレンジ!!オープンガバナンス」の事務局を務めてきました。

一方、SDGs の考え方は、未来の姿から現在を振り返って政策を積み上げていくバックキャストのアプローチであり、「環境」、「社会」、「経済」というこれまではトレードオフの関係にありがちだった3つの領域のバランスを取りながら、開発していこうというものです。そして、そのバランスを確認するため、各ゴールに指標を設定し、指標の変化にあわせ、適応的に管理できるガバナンスを求めています。

このようにUDCBK とSDGs の考え方は、親和性があると考えています。

SDGsが規定しているのは、方向性と目標のみですが、UDCBK ではその方向性、目標さえもみんな考えて行こうとしています。シリーズ第1回の建山先生も御指摘のように白地のキャンパスに一から絵を描くことは難しく、やはりSDGs というある種の制約がある方が考えやすいことがわかりました。

これから、UDCBK でもSDGs を意識しながら、活動をしていきたいと考えています。

● グループワークについて

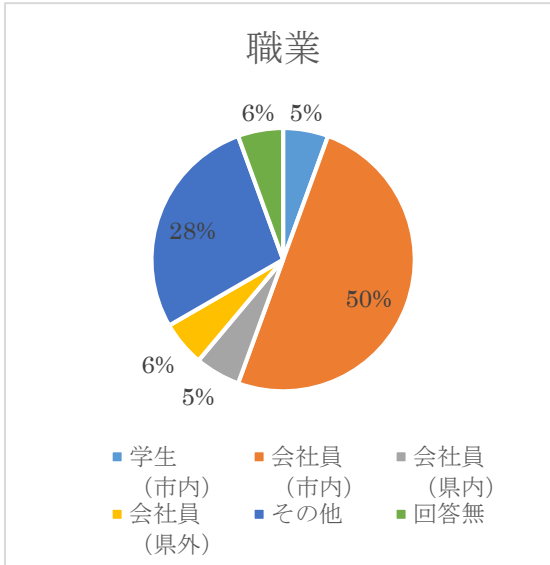
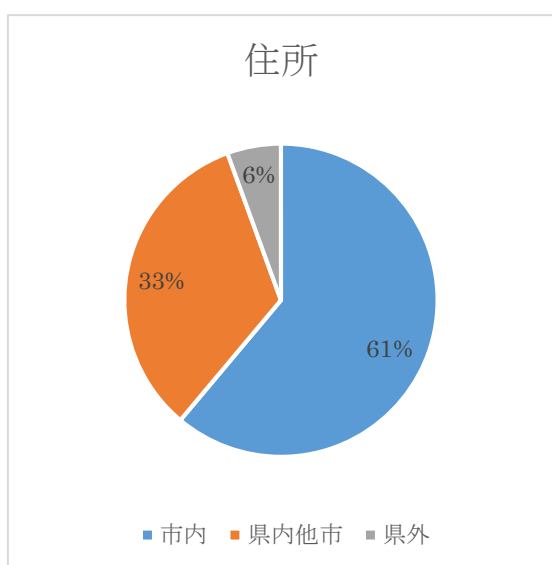
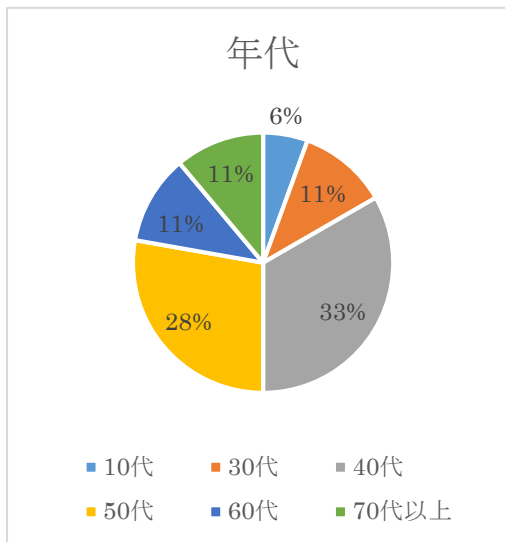
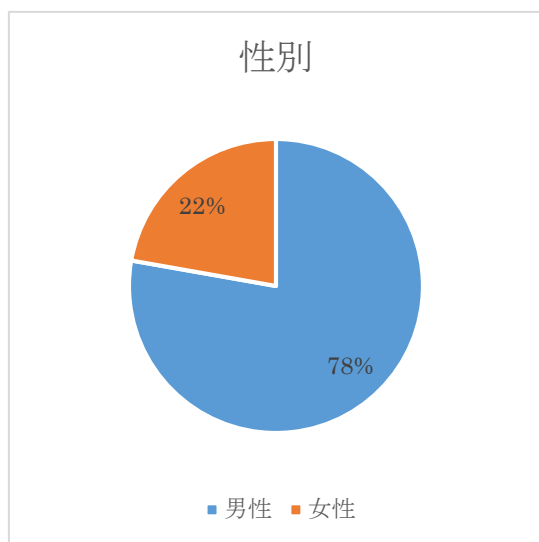
グループワークでは、「琵琶湖の湖辺域(湖岸緑地など)の新たな利活用を考える」がテーマでしたが、全てのグループにおいて、湖辺域に留まらず、湖面、山や川、都会、防災など他との関係性に言及していました。SDGsそのものが、「環境」・「社会」・「経済」との統合を目指していることから、グループのアイデアがSDGs を理解し、時空間を超えた提案であったのに対し、将来ビジョン計画が湖辺域に限定して考えていたことは象徴的でした。

アンケートでも「いろいろな立場の方と議論できたよかった」とありましたが、従来は行政といわゆる専門家と言われる方々を中心に政策が作られてきましたが、SDGsの視点を取り入れ、多様な人々とパートナーシップで取り組むことによって、このように行政や専門家では気づかない視点を政策に取り入れることが可能であることがわかりました。

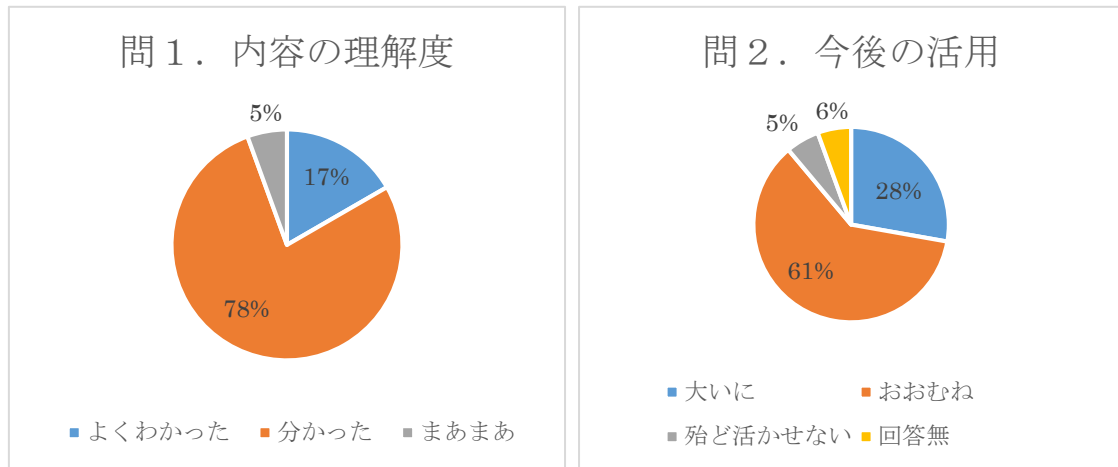
11. アンケート結果

参加 20 名のうち、アンケートに回答していただいた方は 18 名でした。アンケート回答率は 90%です。

(1) 参加者属性



(2) セミナーの内容について



(3) 内容に関する主な自由回答

- SDGsをどう自分達の活動にどう生かしていけるか？ 試行錯誤をしています。
- びわこの利活用。
- 企業とNPOなどセクターを超えたSDGs事業の協働事例や可能性を学べるワークショップ。
- SDGsに興味があった。
- 湖面にカジノね？ オモロイ！！
- 都市計画区域の見直が必要ですね。
- いろいろな立場の方とお話ができ楽しかったです。知らないことがわかった。
- びわ湖と社会・経済の関係について考えるよい機会となりました。
- 琵琶湖に対する見方が変わった。
- 滋賀県について知らないことも、多かったので、色々お話を伺え、大変楽しく参加できました。ありがとうございました。※後期のセミナー ワークとSDGsのつながりに距離を感じました。
- 県職員の方にも参加して頂き、貴重な機会であったと思う。
- 県、市、職員の方と意見交換とてもよかったです。本音の話で。テーブルに、職員さんは入るべきです。
- 琵琶湖・草津市のテーマは今後も続けていくべきです。
- SDGsの関心層が見えて話ができおもしろかったです。
- ワークショップが十分に時間取れて良かった。

以上